

## 中村美枝子先生の思い出

マクニール恵子

1967年の作新学院女子短期大学創立時から現在の間人文化学部まで、40年余の長きにわたって教鞭を取られた中村美枝子先生が2009年3月末日を持って退職されました。短期大学創立時の先生方で、一の沢キャンパスを経て清原キャンパスに至る今日まで教壇に立たれたのは中村先生お一人ということになり、いわば、全行程を完走なさったわけで、まことに喜ばしく、長年の同僚としては月桂樹の冠と共に表彰状を差し上げたい気持ちです。

中村先生の研究室は私の研究室の隣ということもあって、よく、ご相談や情報交換等で先生の研究室に伺っていたので、今でも先生が退職されたという実感がわからず、隣に足を向けようとしてハッとすることがあります。天井まで届く本棚に英文学関連の書物が整然と並んでいた先生の研究室の扉は固く閉ざされて入ることができない、という現実気付くと懐かしさと寂しさがこみ上げてきます。ご連絡すればお会いできるのに、先生の研究室でのあの温かい笑顔がもう見られない、と思うと感傷的な気分になってしまいます。

「完走」という表現を使ったとき、先生がよく口にされていた言葉を思い出しました。先生は「教室は教師の戦場よ」とよくおっしゃっていたのです。この言葉からは、教育への責任感、使命感、情熱、真摯さが伺われますが、先生はこの言葉通り、私の見るところ、授業の準備を完璧になさり、体調が悪くても休講にはなさらず、凛として授業を続けられました。学生指導もよくなさっていたと思います。

中村先生で思いだされるのは英文学と時事英語への造詣の深さです。先生のご専門はウォルター・ペーターとラファエル前派の絵画ですが、授業では英文学史と英文学研究を担当され、数々の作家と英文学作品について熱心に講義をなさっていました。シェイクスピア作品には特に力を入れていて、卒業生や在校生から、先生の授業で『ハムレット』、『マクベス』、『リア王』、『夏の夜の夢』等を読んで感動した、という声を良く聞きます。個人的には、研究室や通勤の電車の中で、今読んでいる作品の内容を語ってくださることがよくあって、そのたびに啓発されていたのを懐かしく思い出します。3・4年の英語コミュニケーションでは時事英語と取り組まれ、その準備のために、BBC放送を見、“Time”や“The Japan Times”をよく手にされていました。時事問題によく通じておられて、先生が話題になされたことについていけなくて赤面したことも度々ありました。

この文を書くにあたって、私だけが思い出を綴るよりは、先生が実際に教えた学生からの思い出もあっていい、と思いつき、先生が短大時代に最初に教えた学生と、現四年生二人に、先生へのメッセージを寄せてもらいました。

卒業生：「開学以来ずっと先生に憧れ、私も先生のようにいつも心穏やかに過ごせる女性になりたいと思っておりました。怠け者の私は、勉学よりも先生の上品な話し方、立ち振る舞いにどれだけ憧れたことでしょうか。先生にお逢いできたことは一生の宝と感謝しております。いつまでも憧れのお手本である先生でいらしてください。」

四年生：「1年間中村先生に英語を教えていただきましたが、いつも思っていたのは、『先生は優しい』、ということでした。英語の不得意な私にもゆっくりと優しく教えていただきました。とても優しく大好きな先生がお辞めになってしまい、今、とても寂しいです。今年卒業する私は、中村先生と過ごした1年間を大学生生活の大切な思い出として歩んでいきます。」「私にとって中村先生は、親身になって指導に当たって下さる素晴らしい先生でした。個人的に度々指導してくださって、私に役立つ様々な資料も提供して下さいました。現在、私が卒業論文で扱っているテーマに関心を持つ一つのきっかけを与えて下さったのも中村先生です。今の私があるのは中村先生のお陰ですので、先生には心から感謝しています。」

中村先生は、決して平坦ではなかった道を走り続けてゴールでテープを切りました。中村先生の教えを受けたすべての学生と、これまで共に教師生活を送ってきた同僚から、中村先生に、「長い間ご苦勞様でした」という労いと、「これまでのご薫陶、ご指導をありがとうございました」という感謝の言葉を捧げたいと思います。